

JHFレポート

193号 JHF

最新情報・バックナンバーは
ウェブサイトでご覧ください。
<http://jhf.hangpara.or.jp>

Japan Hang&Paragliding Federation

社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟 発行

新しいJHF、発進。

2011年4月1日、JHFは公益社団法人に移行します。

公益認定申請の結果

JHFレポート前号（2010年10月18日発行の192号）で「公益認定とは」として公益法人制度改革三法特別委員会（以下、三法委員会）・制度委員会が行ってきた公益法人申請について報告しました。

その後、2010年12月の申請を経て、内閣府・公益認定等委員会において答申を得、内閣総理大臣から認定を受けたJHFは、公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟として出発することになりました。

公益認定までの経緯

公益法人制度に見られるさまざまな問題に対応するため、2006年6月に公益法人改革三法が公布され、2008年12月1日から新しい公益法人制度が始まりました。

JHFでは、公益法人改革三法が完全施行される2008年12月1日に先立ち、同年2月に三法委員会を立ち上げました。JHFを解散する選択肢は無いと考え、一般社団法人化するべきか、あるいは公益社団法人化するべきかの検討から着手したのです。

三法委員会は数ヶ月の議論を経て、2008年5月9日に、公益社団法人化するべきだとJHF会長宛に答申を行いました。

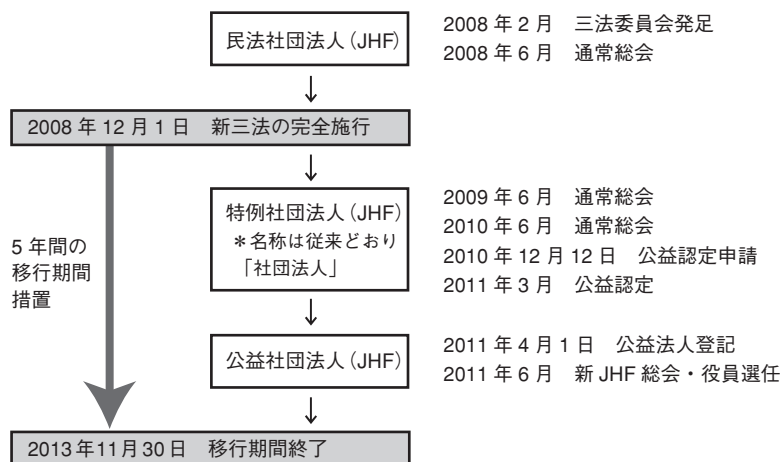
同年6月の通常総会において、正会員に対して、社団法人の制度変更及び対応の必要性を説明し、公益認定申請の方針を承認いただきました。その後『内閣府モデル定款案』を基準にして、現行JHF定款の変更の必要性の有無を含めた検討を三法委員会で重ねた結果、定款の変更が必要との結論に達し、現行JHF定款をベースにした新法対応定款案「新JHFモデル定款（A案）」と内閣府モデル定款をベースにした「新JHFモデル定款（B案）」を検討。その結果、このB案をJHF会長宛に答申しました。

2009年6月の通常総会で担当となった市川理事を中心に、内田会長・泉三法委員会委員長も認定委員会の個別相談会に参加して情報を集め、必要な周辺の規約等も整理して、2010年6月の通常総会において、正会員の皆様には申請の核となる定款・役員報酬規約・会員会費規約の変更について承認をいただきました。

そして、冒頭に報告したとおり2010年12月に公益法人化申請を行い、数度の修正を経て2011年2月に同委員会からの答申、3月に内閣総理大臣からの認定を受け、2011年4月1日付の設立登記に漕ぎ着けました。

本年2月に発覚した、財団法人日本相撲協会の力士による八百長行為問題により、同法人の公益法人化に多くの異議があがったことは、皆様ご存知のとおりです。公正かつ公益に沿った活

JHFの公益社団法人への移行



民法社団法人であるJHFは、5年間の移行措置期間中に「新法公益社団法人」または「新法一般社団法人」あるいは解散のいずれかを選択する必要があったが、移行期間のほぼ中間時期に新法公益社団法人の認定・登記を達成。

内閣府では、JHFに右記の能力があることを認めて公益認定を行った。

- ☐ 経済的基礎を有する
- ☐ 技術的能力を有する
- ☐ 役員や正会員その他営利事業者等に特別の利益を与える行為を行わない
- ☐ 公益事業収入が公益事業費用を上回らない収支相償である
- ☐ 公益目的事業の比率が事業費および管理費の合計の50%以上である
- ☐ 遊休財産額が公益目的事業費1年分の制限を超えない



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

お見舞い

3月11日（金）に発生した東北地方太平洋沖地震による被害を受けた地域の皆様に、謹んでお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。（義援金受付中。P3参照。）

動を行っている団体に対してのみ公益法人の認定が下ります。我々が目指す社会的信頼性の高い団体としてJHFは認められたことになります。

公益認定後のJHF

2011年4月1日から公益社団法人としての道を歩むJHFは、次のように変わります。

1. 主務官庁制の撤廃

従来の公益法人制度では、法人のガバナンス（内部統制）については民法上の規定が無く、JHFは所管官庁である文部科学省の監督下に置かれていました。新しい公益社団法人は、法人自らが自主的・自立的に運営を行っているように、主務官庁制が撤廃されました。

今後のJHFは、公益社団法人として自主的・自立的な運営を行う一方で、適正な運営を確保するために必要な範囲で、担当行政庁である内閣府から監督を受けます。また、内閣府に対して毎年実施報告を行うことが必須になります。

2. 社団法人から公益社団法人に

「公益社団法人」という名称は、公益認定を受けた法人以外には使用することができません（誤認される恐れのある類似性のある名称も使用できません）。公益認定を受けることの難易度を考えても、簡単に公益法人となることはできませんので、「公益社団法人」の名称を使用できるということは、そ

のまま公益性の確保と社会的信頼性の向上につながるといえます。

3. 事業を三つに分類

公益社団法人としてのJHFの事業については、二つの「公益事業」並びに一つの「その他事業」に分類して活動していきます。事業内容については下の事業組織体系図をご参照ください。

4. 税務上の優遇措置

公益認定を受けた法人や、その公益認定を受けた法人に対して寄付を行う個人や法人には寄付金に対して、税務上の優遇措置が適用されます。

5. 役員選挙

従来の民法法人であったJHFに置かれていた理事会は任意の機関でしたが、公益社団法人の理事会は、法律に定められた機関となります。理事や監事の選任については、法に基づき必要要件を新定款に定めています。

なお、2010年通常総会での議決に従って、2011年6月の総会における役員選出の具体的方法に限っては、従来の役員選挙規約を法律および新定款に適合するように読替えて行われます。

大きな変更点としては、新定款に照らして役員の定数の変更と役員に占める親族関係者や同一団体所属者等の理事会構成比率条項、法に照らして役員不適格等の規定があります。

特に公益法人改革三法では、公益法人の事業実施の技術的能力や会計処理

の経理的能力が問われていますので、新JHFの役員には、それらの管理的能力が求められます。また、選挙権を持つ正会員の皆様には、立候補者の資質を見極めて役員を選任いただくことが必要とされます。

公益法人は、国民に開かれた国民の公益のための団体であり、その目的を遂行する能力を有しこの活動に資する者であれば、アマチュアであっても業界関係者であっても構わない、という考え方に基づいて、従来あった業界関係者の参加を限定する規定も見直されます。

総会の予定

今年のJHF総会は通常総会ではなく「新JHF設立総会」になります。6月14日（火）11時～17時、昨年と同じく東京体育館（東京都渋谷区千駄ヶ谷1-17-1）での開催を予定しています。傍聴については、後日JHFウェブサイトでご案内します。

役員選挙の予定

今年はJHF役員選挙の年です。役員選任公示（従来の選挙公示）を4月5日（火）、JHFウェブサイト上で行い、上記総会での投票までのスケジュールをお知らせしますので、ご注目ください。立候補締切は5月上旬の見込みです。

JHF 事業組織体系図

公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟の事業

公益目的事業 1

ハング・パラグライディングスポーツの普及、振興、技術認定、安全性向上のための事業

1. 広報事業：ホームページ・JHF レポート・統計等調査報告書（白書）の発行など
2. フライヤー登録制度（第三者への損害に備えた第三者賠償責任保険を含む）
3. 資格付与および講習会事業（飛行技能認定制度を制定、指導員の認定・資格更新など
4. レスキューパラシュートリパック技能認定
5. 機体型式登録制度
6. 安全性セミナー講習会実施
7. 事故調査および再発防止活動

公益目的事業 2

ハング・パラグライディングスポーツの育成および強化事業

1. 競技会ルールの制定・日本選手権をはじめとする競技会の主催・ポイント制リーグ大会の公認・その他競技会の後援など
2. 世界選手権やオリンピック行事への選手派遣・選抜
3. ハング・パラグライディング競技記録の認定

その他の事業

1. 正会員に対して公益目的事業関係費の助成金支給
2. 日本学生フライヤー連盟等の公益事業支援目的の助成金支給

*公益目的事業とは「公益法人認定法に掲げる公益の事業であって、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するもの」と定義されています。

機体登録が変わりました 2011年からの型式登録・機材情報登録

パラグライダー、ハンググライダーの型式登録制度は、フライヤーに提供されている機材の安全性確保を目的としています。また、私たちは通常、他人の所有地の上を飛んでおり、何か問題が起ると、行政機関から確認があります。機材の型式登録を完備することは、日本の空を自由に飛ぶ権利を守るための自主管理の一つです。

しかし近年、登録管理が不十分な状態に陥っていました。フライヤー登録と型式登録の2本立ての自主管理制度が機能していないと、法による規制が懸念され、自由に飛べなくなる可能性も出てきます。

そこでJHFは、2010年10月、機材の輸入、販売業者の方々と話し合い、こ

れまでの問題点等を議論し、今後の型式登録について検討しました。その結果、2011年1月より、輸入、販売業者の方々からの二階層式の登録（下記）により管理していくことになりました。登録状況は、JHFウェブサイトの安全性委員会・型式登録／登録機リストでご覧ください。

◆輸入ハンググライダー・パラグライダー型式登録

JHF安全性委員会が審査し、型式登録証明書を発行する。申請料2,000円。

登録申請は従来どおりですが、下記の3点が変更になりました。

- 1) 飛行試験と強度試験の申請については、認証機関による証明済みの公示情報の提出で代用できる。

- 2) 三面図は相当する三方向の写真の提出で代用できる。
- 3) 運用限界プラカードは、製造元のオリジナルプラカードでも可。

◆機材情報登録

JHF機材情報登録規程を新設。国内の輸入代理店等、その機材に対しPL法その他の社会的責任を持つ方からの届け出にて受付。審査、申請料なし。

機材情報登録届に下記4点を添付。

- ・機種名、サイズ等が分かるリスト
- ・諸元表（リストと照合できるカタログ、スペック表等）
- ・オプション表
- ・取扱説明書又は重要事項説明書の添付が必要になります。

第三者賠償責任保険の問合せ窓口をJHF事務局に変更

2011年4月1日より、第三者賠償責任保険の保険金問合せ窓口を、東京海上日動火災保険株式会社から、JHF事務局に変更します。万一、他者に損害を与える事故を起こしてしまったら、まずJHF事務局にご連絡ください。

* * *

JHFレポート192号で「もしも事故が起きた場合の保険について」をお知らせしたとおり、高額保険金支払いによる第三者賠償責任保険料の値上げもあり、2010年1月よりフライヤー会員会費を改定、皆様に大きな負担をおか

けています。

事故が減少すれば保険金支払いが減り、会費の値下げも可能となります。JHFは事故ゼロを目指して活動を行っており、安全性をより高めるために情報を収集し、事故の状況を把握する必要があります。そこで、第三者賠償責任保険の保険金問合せ窓口を事務局とすることにしました。

事故のご連絡の際、事務局では、どのような事故・損害かの確認をします。また、見落としがちな「他の賠償保険」のご加入がないか、チェックし

ます。他の賠償保険のご加入がある場合、複数の保険によって保険金が増えるだけで、被保険者の不利益は何も発生しません。もちろん、個人情報の取扱いには十分に注意を払います。また皆様に事故防止のための有用な情報を提供することができま

ますので、ご協力をお願いします。事務局で上記について確認の後、担当させる東京海上日動の連絡先をお伝えしますので、お住まいの地域で請求手続きをお願いします。

災害義援金を受付けています

JHFでは、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の被災者の方々への義援金を受付けています。お手数ですが、右記の銀行口座にお振込みくださいますようお願いいたします。

皆様からお預かりした義援金は、全額、東北地方太平洋沖地震被災者の支援に活用されるよう寄付します。どうぞご協力ください。

◇義援金振込先

三菱東京UFJ銀行

（銀行コード 00005）

巣鴨支店（店番号 770）

口座番号：普通 0017991

口座名義：社団法人日本ハング

・パラグライディング連盟

（シャ）ニホンハングパラグライディングレンメイ

*振り込み手数料はご負担くださるようお願いいたします。

また、この災害によってJHFフライヤー会員登録証や技能証カードを紛失するなどして再発行が必要な方は、事務局にご相談ください。手数料無しで再発行します。（詳しくは事務局にお尋ねください。）

被災されたフライヤーの皆様が一日も早く空に戻って来られるようお祈りします。

より安全な飛行のために

2011年JHF教員検定員研修検定会を実施

3月8日から9日までの3日間、静岡県のアサギリ高原パラグライダースクールで、教員・スクール事業委員会が中心となり、教員検定員研修検定会を実施しました。（教員検定員の任期は3年間。前は2008年3月に実施）

飛行の自由を担う教員を

日本でパラグライダーやハンググライダーが自由に飛行できるのは、フライヤーと機材の自主規制があり、そのルールの下でフライトをしているからです。

自主規制の大きな柱のひとつ、フライヤーの技能認定制度は、車のような免許制度がなくても安全にフライトできるように、ハンググライディング初期にスタートしました。現在、フライヤーの皆さんはJHFの「技能証」という決まりにそってフライトを楽しんでいるのです。

JHF技能証規程に則って全国各地のスクール等で技能認定を行う教員は、現在約370名いますが、これからのパラグライディング・ハンググライディングの普及、安全性向上のためには、さらに多くの新しい力が必要です。そこで、教員の技能認定を行う「教員検定員」の研修検定会を実施、現役検定員を含む30名が参加しました。

全国同レベルの教員検定を

参加者は指導経験豊かな教員たち。技能認定制度ができた当初から活躍してきたインストラクターもいます。日本中どこでも同じレベルで教員の技能認定ができるように、参加者は3日間の研修で最新情報を共有し、また、さまざまな情報の交換をしました。

初日は、パラグライディング新教本の概要、教員助教員検定手順、パラグライディングのSIVトレーニング知識、

ログロタイプを含むレスキューパラシュートのリバックの各講義に続き、財団法人体力づくり指導協会の第2事業部長、齋藤義浩氏による「高齢者とスカイスポーツ」の講義を受けました。

2日目午前は、「事故の事例と原因分析」の後、赤坂剛史博士による「航空力学：揚力（作用、反作用）、旋回理論」、そして「パラリーマンの夢を実現しよう」の各講義。

午後には、レスキューセットに含まれる6mmのロープを利用し、ロープマッシャー（オートブロック）を使った山沈救助法の実技研修を実施。さらに、ウェザーニュース社の梅本佳奈気象予報士による「スカイスポーツにおける気象：エマグラム及び地域風」の講義がありました。

3日目は、「LTFとENについて」、「最新CIVL情報」の講義の後、ピッチング、ローリング、Aライザーによる片翼潰し安定飛行、指定地着陸などの実技検定を行いました。

研修検定を修了した29名の皆さんは、この4月から3年間、教員の検定



実技検定では指定地にランディングする模範演技も。



ピッチング、ローリング等の模範演技を採点。



レスキューパラシュートのリバック講義。



ロープを使って山沈救助法の実技研修。



雪の斜面から実技検定に向けてテイクオフ。

を行います。助教員の皆さん、ぜひ検定を受けて、パラグライディング・ハンググライディングに必要な知識と技術をわかりやすく的確に伝達できる教員として、ご活躍ください。

なお、教員検定員は、重大事故発生の際に事故調査も担当します。



齋藤講師は高齢者とスポーツを講義。



参加者、関係者一同。寒さのなかお疲れさまでした。



教員・スクール事業委員が中心となり検定を担当。



旋回理論を講義する赤坂講師。



ハングフライヤーでもある梅本講師。

2011年度～2013年度教員検定員

◇パラグライディング教員検定員

北海道	田代 茂樹
岩手県	八幡 信雄
宮城県	山谷 武繁
山形県	金井 誠
埼玉県	下山 進
埼玉県	工藤 修二
神奈川県	島野 広幸
神奈川県	中村 ヤスヲ
群馬県	伊尾木 浩二
山梨県	岩橋 亘
山梨県	水野 良信
栃木県	樋口 和夫
長野県	殿塚 裕紀
静岡県	目黒 敏
静岡県	加賀山 務
奈良県	丸谷 政則
大阪府	片岡 義夫
徳島県	椋本 清治
愛媛県	山野 好喜
福岡県	小林 秀彰
福岡県	角町 正彦
長崎県	小川 勝良
沖縄県	大城 芳郎

◇ハンググライディング教員検定員

東京都	郷田 徹
神奈川県	町田 重幸
茨城県	桂 敏之
和歌山県	外村 仁克

◇パラグライディング&ハンググライ

ディング教員検定員

茨城県	板垣 直樹
熊本県	西本 一弘

委員を募集中 あなたの力を貸してください

JHFの活動を縁の下で支えているのは、委員会のメンバーたちです。現在の委員の任期は2012年3月31日まで。新設ならびに定員に満たない委員会の委員を募集しています。（ ）内は募集人数。委員応募用紙にご記入の上、ご応募ください。応募用紙はJHFウェブサイトのフライヤーサポートデスクからダウンロードしていただくか、事務局にご連絡ください。

空の仲間のために、そしてこれから仲間になる人たちのために、あなたの力をJHFに貸して下さるようお願いします。

□ハングパラ振興委員会（2名）

2010年10月19日理事会で、愛好者の増加促進対策の企画立案を目的として設置を決定した委員会。ハンググライダー・パラグライダーの業界

関係者との連携、技能証を取得しながら継続していない愛好者の分析、広報事業等、フライヤー仲間を増やすためのアイデアを考えていきます。

現在、次の3名の方よりご応募いただき、1月20日理事会承認後、活動を開始しています。

芦川雄一郎（委員長）

橋本みさ紀、堀江譲

□制度委員会（3名）

□補助動力委員会（2名）

なお、パラグライディング競技委員会は委員2名で活動してきましたが、1月20日理事会で下記の3名の方を新たに承認しました。

岩谷勝弘、上山太郎、成山基義
安全性委員会は5名で活動してきましたが、3月23日理事会で1名を新たに承認しました。

西本一弘

安全に飛ぶために

春の事故

JHFパラグライディング教員検定員 島野広幸

フライヤーの春

田舎暮らしの飛行（非行）中高年が春といわれて連想するのは「山菜」。平地でも山でも植物はぐんぐん成長しとにかくエネルギーが豊富な季節が春。

もはや自身の肉体からは若かりし頃のみなぎるパワーは失われ、気持ちだけが空回りする現状に少しでも刺激を与えるためか、栄養豊富な春の新芽を食べて、元気と健康を保つ努力をしている。ちょっと元気が出てきたら、桜の花に群がって宴会をする。風が良ければ、もちろん飛ぶ……という雰囲気がある春のイメージ。

人生の春

人生の春といえば「思春期」。男子は射精をすることが可能になり、女子は胸が膨らみ始める。Hな気持ちが盛り上がり始めてきて、抑えがきかなくなりそうな時期。植物の新芽と同じで、人間もこの年頃はエネルギーに満ち溢れている。

思春期に続いて訪れる人生最大の山場は、若く未熟で、しかしながら元気で力に溢れた時代「青春」。青春時代がとっくに過ぎてしまっても、まだまだ人生の春は終わらないたくさんの中高年がエリアで幅をきかせている。

何事も自分の思いどおりになる、最

も得意な時期を「わが世の春」という。つまり、春という言葉で表現される事象にはとにかく勢いがある。

一方、「春にはおかしな行動をとる人が増える」ともいわれ、そのような行動をとる者は俗に「春な人」と呼ばれることがある。これは、エネルギーがいつもと違った方向に向いてしまっているケース。

春の風

春の風だって他の事象に負けず劣らず、すごいエネルギーを持っている。クロスカントリー記録や高度記録も春に達成されるものが多い。

そして、春は他の季節と違ってしばしばおかしな（無秩序な）風が吹くことがある。

エネルギーと無秩序が合体した風という自然現象は、人間の能力をはるかに超えてしまい、ときにはフライヤーの脅威となり、事故につながることもある。

スカイスポーツ界では単純に「春の風」といえばイコール「荒れた風」のことを指す。だから、軽い気持ちで翼を広げると、思わぬトラブルに巻き込まれるかもしれない。春の風は油断禁物、これが今回のテーマです。

無事故の連休を

5月のゴールデンウィークは、全国的にたくさんのフライヤーがエリアに集まり、空もラッシュアワーなみの混雑となる。日本全国という範囲で考えれば、残念ながら毎年複数の事故報告を聞いている。今年こそ、全国無事故のゴールデンウィークを過ごしたい。

日本全国のフライヤー人口（JHFフライヤー会員数）は、パラ・ハング・モーターを合わせても1万人程度。分母がこれで事故件数を分子とすれば、その確率は決して低くない。事故は他人事ではないと心を戒めて、スカイスポーツに向き合うべきです。

初心に戻り飛行再開

春は、冬眠していたフライヤーが眠りから覚めて飛び始める。「冬は寒いから飛ぶなんてことはしない。部屋を暖かくしてコタツでみかんを食べている」という人もいれば、冬には冬のスポーツ、スキーやスノーボードで滑りまくる人も多い。そんな人たちが、しばらくお休みしていた翼をひっぱり出して、土筆のようにエリアに表れ、再び飛び始める。

冬の間に鈍った感覚を取り戻す前に春のごつつい風に遭遇することも、春に事故が多い原因とみられている。久しぶりにテイクオフに立つと、当たり前前のができない。たとえばブレイクコードの持ち方が分からないとか。そんな人は要注意！

いきなり飛ぶのではなく、初心に戻ってライズアップから始める。ライズアップをすることによって、自分が直接肌で感じるよりも広範囲な、そして高い位置の風を感じ取ることができる。このとき感じた風の強さや変化などは、安全に飛ぶためのとても大きな判断材料となる。

また、久しぶりに飛ぶのであれば、日中のサーマルタイムを地上練習にあて、サーマルが弱くなって安定した夕方時間帯に飛ぶような心の余裕が必要。待ちすぎてすっかりチャンスを失い、ぶっ飛びだったり飛べなかったりしても良いではないか。

冬場飛べなかった／飛ばなかった人たちが、春のコンディションで飛ぶときの注意点として、当たり前前の準備を怠らないことが大切。

○事前に装備を点検する

キャノピー、ハーネスの点検。緊急用パラシュートのリパックや引き出しのチェックなど。無線や計器の点検も忘れずに。

○しっかり準備体操する

○まずはライズアップ練習などから始める

ゆっくり慎重すぎるくらいに

ゴールデンウィークは、足をのばしてホーム以外の不慣れたエリアでフライトすることもある。長距離や渋滞などで長時間の運転をした結果、体調が



春の風に乗ってビッグフライトも。

万全でない。でもせっかく移動してきたのだからと無理をする。

エリアが変わると、それに合わせて飛び方も変わる。ホームエリアの慣れた親しんだ風や景色とはまるで違う場所です。飛ぶときは、自分の技術ランクが一段下がると思って間違いない。そのことをしっかり認識して、いつも以上の慎重さを持って飛ぶ。フライト前のランディング場チェックは絶対必要。地形や進入コース、エスケープゾーンなどを頭に入れておくこと。

- 十分な睡眠時間など体調を管理する
- エリア環境を理解する（空域、ランディング場のチェック）
- インストラクターや周囲のメンバーからコンディションについてアドバイスをもらう

変化に応じてしっかり準備

冬の間もがっちり飛び続けたフライヤーも油断禁物。夏から冬にかけて比較的穏やかだったコンディションが、春にはぐんぐんとパワーアップして、今まで体験したことがないような高度まで上昇したり、初心者でも長時間のフライトができたりする。

思わぬ上昇で体温を失い手足などが自由に動かない、長時間のフライトで体力が尽きる、自分の限界を超えて飛び続けランディングする頃には集中力が途切れてしまう……などのこともよく耳にする。

冬から春になり重装備から軽装備に変わると、フライヤーとハーネスの間にスペースができてしまう。ハーネスのフィット感がうすれて全体的に不安定な感じになり、コントロールにも影響を及ぼす。ポッドを取り外してフットバーに交換したりする場合なども含めて、しっかりしたハーネスの調整が必要だ。装備重量が減るので、当然の結果として翼面荷重が減る。

春は心も体も軽くなる。となると、平均速度が減少し、俊敏性が失われ、翼の剛性が下がり潰れやすくなるなどの変化が起こることを理解しなければならない。

- そこそこに飛んで余裕を持ってランディングする
- ハーネスの調整をする
- 翼面荷重の変化による特性の変化を理解する

春の天気の特徴を理解する

冬から春への季節の変化に伴い、気圧と低気圧が交互に訪れ、短期間で空気が入れ替る。寒気が上空を覆うこともまだある。寒気が伴うため、放射冷却で早朝の地表付近は冷え込み、太陽高度が高くなったことで太陽照射は増加して日中は暖くなる。つまり暖かい空気と冷たい空気、この性格の違う空気が混在するから、春の天気は不安定。

冷たい空気と暖かい空気がぶつかり合い、局地的な低気圧が発生しやすいから、春は風が強くなることがしばしばある。

また、低気圧が日本海を通過する回数が増える。そして日本海を前線が通るとき、春の嵐が発生しやすい。このような気象状況をフェーンと称し、強い南風が吹き気温は上昇する。春一番もこの条件で吹く風の代表。

春は風の季語（花散らしの風、春疾風、東風、春嵐）も多いことから、風が強くなり気象変動が激しいことが古くからいい伝えられていることがわかる。

寒暖の差が大きくなり活発なサーマル活動が期待できる春は、最上級のクロカン条件でありながら、同時に危な

いコンディションでもある。サーマルも裏を返せばただの乱気流。強いサーマルの影にはヤバイ乱気流が潜んでいる。このような気象的条件を理解して素晴らしい春のフライトを楽しんでもらいたい。

最後に一言

春に限ったことではないが、事故を防ぐという観点からすれば、やはりパラグライダーの最終的事故原因ともなる失速や潰れを無視できない。潰れのメカニズムと潰れからの回復のメカニズムや失速のメカニズムをしっかり理解することが、とても重要だ。

自動車事故の場合は、車が壊れてもドライバーや搭乗者は無傷というケースが多くあるが、パラグライダーの事故の場合は、パイロットが怪我をすることが多く、死亡するケースもある。

世間では「事故」と呼ばれるような事象でも、怪我をしなければ、フライヤーには「ちょっとしたこと」と軽視されることが多いように思われる。どうやらフライヤーの多くは、痛みを伴わないと危険・事故として認識しないらしい。いわゆるヒヤリ・ハットの教訓を軽視してはいけない。

気象について学ぶ

下記のとおり公開気象講演会が開催されます。安全飛行に気象の知識は不可欠。ぜひご参加を。

日時：2011年5月21日（土） 13時30分～17時00分

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

<http://nyc.niye.go.jp/facilities/d7.html>

主催：社団法人日本気象学会、教育と普及委員会・航空気象研究連絡会

後援：一般社団法人日本気象予報士会

テーマ：航空気象～航空安全のための気象学～

航空機の安全運航のためには気象情報が必要です。最新の研究や観測・予測技術の紹介、情報が実際にどのように状況判断に用いられるか、今後どのような情報が出るのか、また必要なのかをさまざまな立場の観点から解説します。

内容：

1. 航空気象の全体像
中山 章 氏
（日本航空機操縦士協会顧問）
2. 気象庁から発信している航空気象情報
田畑 明 氏
（気象庁総務部航空気象管理官）
3. 管制の現場での航空気象情報
未定（国土交通省航空局担当官）
4. 民間での情報の利用
浦 健一 氏（日本航空）
5. パイロットの立場での情報の利用
山本 秀生 氏
（日本航空機操縦士協会）

参加者：日本気象学会会員の他、どなたでも参加できます。

参加費：無料

申込方法：日本気象学会ウェブサイトにて後日告知。

<http://www.soc.nii.ac.jp/msj/>

競技報告 2010年8月ー2011年3月

日本選手権

2つの日本選手権を開催しました

□第4回パラグライダー

アキュラシー日本選手権 in 宮城

2010年10月16日・17日

いま注目のアキュラシーは、宮城県仙台市の泉ヶ岳スキー場をメイン会場に日本選手権を開催。泉ヶ岳では第1回の日本選手権を開催しており、今回が2度目となる。全国から30名の選手が集まり、2日間の熱戦を繰り広げた。

競技初日はフォローのため、会場を大崎市の三本木エリアに移し、トレーニングによって競技を行った。トレーニングフライトの後、競技を開始。まずは1本のラウンドが成立した。ルーキーの吉富選手と三連覇を狙う地元の山谷選手が、ターゲット中心から2cm

でラウンドトップを奪った。

競技2日目はメイン会場の泉ヶ岳で競技。気象条件はよくなったが、アキュラシーには難しいサーマルコンディションとなり、各選手が苦しめられた。序盤から山谷選手と初タイトルを狙う岡選手がリードし、その争いは最終ラウンドまで続いた。

セカンドグループは3位～10位の大接戦となった。この中にはランキングTOP10の常連組がおり、またルーキー勢も大活躍。各選手が入賞を目指して、最終のラウンド7に挑んだ。結果、常連組が入賞を決めたが、ルーキーでは地元日野選手が粘って、3位の表彰台を手に入れた。

優勝争いは、岡選手が10cmとプレッシャーをかけるが、山谷選手がアドバンテージを守って三連覇を達成し

た。女子クラスでは、昨年の日本選手権で最終ラウンドにミスした東武（旧姓：稲田）選手が、1年越しに念願の初優勝を飾った。

今回はルーキーの活躍が目覚しく、日本のアキュラシー競技のレベルアップが感じられる、非常に盛り上がった大会となった。

[スクラッチクラス総合]

1位	山谷 武繁	宮城県
2位	岡 芳樹	東京都
3位	日野 政浩	宮城県

[スクラッチクラス女子]

1位	東武 瑞穂	千葉県
2位	菊田 久美	宮城県
3位	内田 薫	埼玉県

[ハンディキャップクラス]

1位	日野 政浩	宮城県
2位	山谷 武繁	宮城県



PGアキュラシー日本選手権の選手と関係者。おめでとう！



パラグライダー日本選手権の選手と関係者。お疲れさま！



トップ争いを続けた山谷選手。



ルーキークラスのトップ3。



地元選手が力を発揮。左下がゴルフ場。



スクラッチクラス総合の入賞者たち。



スクラッチ女子日本選手権者、東武選手。



入賞者たち。日本一は決定できなかった。

3位 古田 岳史 埼玉県
[ルーキークラス]
1位 日野 政浩 宮城県
2位 山口 翔 山形県
3位 古田 岳史 埼玉県
報告：実行委員長 鈴木克康

□第22回パラグライディング

日本選手権 in 紀の川

2010年11月19日～23日

和歌山県紀の川フライトパークで14年振りのパラグライディング日本選手権（以下、日選）を開催した。

18日の公式練習日は、寒気に残りで時々しづれるなか、選手71名のうち25名が参加。

19日、競技初日。パラがメインの寺山TOではなく、より紀の川のポテンシャルを体感してもらうためにハングメインの龍門TOをチョイスしたのだが、コンディションが穏やかすぎてJRゲレンデを通過したら橋本まで一直線の25.4kmタスク。ここで輝いたのは、ゴルフ場を南回りでJRを取った成山選手。橋本の5km手前まで流し、暫定1位。ホームエリアならではの裏技を早速披露した。

2日目も穏やか。気象予報士・ハングのウメちゃんも、渋そうな情報を入れてくれる。この日輝いたのは、またもやホームエリアの張本選手。誰よりも早く単独で一つ目のパイロンをゲット。22.8kmタスクをゴール。成山選手ら3名もゴールしたが、規定値に達しず成立はおあずけ。

夜はゴルフ場のレストランでレセプション。紀州うめ鳥をはじめ地産食材にこだわり、全国から集まった選手をおもてなし。ビンゴゲームもノリノリ選手のおかげで想像以上に盛り上がり、2015年和歌山国体へ向けて、ゴルフ場上空飛行解禁を目指す足がかりとなった。

3日目の21日も50km以上のビッグタスクが組めず、それでも今日選最大の29.1kmを発表。しかし結果はゴール者なし、規定値にも達しず不成立。がっかりした選手を迎えたのは、直径120cmの鉄板で作る焼そばと焼きうどん。おもしろそうだと作り手に回る選手もいて、楽しそう。

22日、4日目は雨でキャンセル。

そして23日、最終日。寒気が入り冬の気圧配置、強風。テイクオフを龍

門から寺山に変更し13時30分までウェイトイングするが、岡競技委員長、無念のキャンセルを決断。

日選としては不成立を告げられての下山。精神的にも疲れ切った選手を待っていたのは、糖分タップリのぜんざい。いろんな意味で泣けてくる。

日選は不成立だったが、大会としては順位がついた。

優勝は成山選手、準優勝は呉本選手、3位に張本選手。紀の川をホームとする選手が2人も表彰台に立つなんて、嬉しいじゃありませんか！

報告：実行委員長 村井啓太

JHFランキング 各リーグのトップランカー

2010年12月31日で、ハンググライディング（HG）・パラグライディング（PG）の競技シーズンが終了。各リーグのランキングが決まりました。

□HGシリーズ

[総合]

1位 大門浩二 2位 板垣直樹
3位 太田昇吾

[女子]

1位 磯本容子 2位 野尻知里
3位 鈴木皓子

□HGクロスカントリーリーグ

1位 穂吉哲平 2位 鈴木博司

□PG Jリーグ

◇ワールドポイントランキング

[総合]

1位 武貞伸明 2位 若山朋晴
3位 上山太郎

[女子]

1位 平木啓子 2位 高田奈緒
3位 河村葉子

◇ナショナルポイントランキング

[オープンクラス総合]

1位 武貞伸明 2位 若山朋晴
3位 成山基義

[オープンクラス女子]

1位 高田奈緒 2位 河村葉子
3位 橋本由美

[シリアルクラス総合]

1位 氏田敏彦 2位 高田奈緒
3位 山口 翔

[シリアルクラス女子]

1位 高田奈緒 2位 橋本由美
3位 高橋美佳

□PG J2リーグ

1位 橋本みさ紀 2位 村田好彦
3位 尾崎 肇

□PGクロスカントリーリーグ

1位 多賀純一 2位 二三四藤昭
3位 郡司秀雄

最長フライト距離

1位 二三四藤昭 98.2km

□PGアキュラシーJリーグ

[スクラッチクラス総合]

1位 山谷武繁 2位 岡 芳樹
3位 横井清順

[スクラッチクラス女子]

1位 東武瑞穂 2位 菊田久美
3位 茂呂可寿美

[ハンディキャップクラス総合]

1位 塚原隆信 2位 長根 悟
3位 日野政浩

[ハンディキャップクラス女子]

1位 東武瑞穂 2位 石屋恵子
3位 茂呂可寿美

[ルーキークラス]

1位 日野政浩 2位 山口 翔
3位 古田武史

今後の日本・世界選手権

2011年の開催は下記のとおり。選手の方のご健闘を祈ります。

□第23回パラグライディング日本選手権 in 鳴倉

6月9日～12日

*PGアキュラシー日本選手権、HG日本選手権については、詳細を決定後にJHFウェブサイトでお知らせします。

□第18回FAIハンググライディング世界選手権（クラス1）

7月16日～30日 イタリア

日本から世界選手権選抜ランキングによる6名の代表選手とチームリーダーを送り出します（下記）。

選手：大門浩二（世界選抜ランキング1位）、板垣直樹（同3位）、太田昇吾（同4位）、平林和行（同5位）、氏家良彦（同6位）、鈴木由路（同7位）。鈴木博司（同2位）は辞退。

チームリーダー：北野正浩

□第12回FAIパラグライディング世界選手権

7月3日～16日 スペイン

□第6回FAIパラグライディング・アキュラシー世界選手権

7月24日～30日 チェコ共和国

*2つのPG世界選手権の日本代表選手については、決定承認後、JHFウェブサイトでお知らせします

アキュラシーへの招待

**アキュラシーとはどんな競技なのか、
どこが魅力なのか、
そして勝つための法則とは？**

アキュラシー日本選手権三連覇
アキュラシーJリーグ・スクラッチクラスチャンピオン
山谷 武繁

アキュラシーは非常にシンプルな競技である。フライヤーなら誰でもテイクオフして、必ずランディングエリアにランディングする。ということはランディングエリアにアキュラシーランディングをしているのだ。アキュラシー競技ではそのターゲットが直径5mの円になり、上位を目指す選手は直径15cmのパッドを、そして、その中心のペットボトルの蓋くらいの0ポイントを目指す。

誰が参加できるのか？

アキュラシーはフライヤーなら誰でも楽しむことができる競技だ。ランディングにちょっとしたターゲットなどを用意すれば、フライトする度に練習することができる。これには特別な技術はいらない。よく、アキュラシーをするには失速ぎりぎりのコントロールが必要だと勘違いしている方もいるが、通常のコントロールでまったく問題ない。

JHFアキュラシーリーグでは参加資格がNP証以上となっているので、NP証を取得したらぜひチャレンジして欲しい。昨年はパラグライディングを始めて2年目の選手がリーグTOP5入りをしたり、参加初年度にTOP10に名を連ねた選手もいる。

必要な機材は？

また、機材についても、勝つために最新のギアを手に入れる必要がない。安全で正確なランディングをするには初級機や中級機がお勧めだ。世界的に見てもEN-AやBの機体を使用するのがほとんどである。その他バリオはシンプルな機能があれば十分だし（選手によっては使用しない）、GPSも特に必

要ない。ハーネスもシンプルな練習用のもので十分使用できる。

競技内容は？

競技は、ターゲット中心のデッドセンター（0ポイント）からどれくらい離れたところにランディングしたかをcm単位で計測し、それが成績となる。

そのポイントの合計が最も少ない選手が優勝だ。5mの円に入れなかったり、転倒してしまった場合は最大得点の1000ポイントが与えられるので、確実なランディングが必須となる。5ラウンド以上成立した場合は、その選手の最悪の1本が消去される。通常のリーグ戦では6ラウンドの競技が行われ、



ターゲット中心の0ポイントを狙って慎重に。



まず、パッドを踏むための法則を知ることが大切。

日本選手権や世界選手権などは12ラウンドで競われる。ラウンドが増えても消去されるのは1本のみなので、より安定した成績が求められる。

アキュラシー競技の魅力

アキュラシーは各ラウンドの結果がすぐに出るため、各選手のポイント差や順位などを確認することができる。競技としてもcm単位で争っているときは非常に緊迫して、見ているだけでもその争いは楽しい。ちょっとしたミスで順位がすぐに入れ替わるし、1本ミスフライトをしている選手はこれ以上のミスはできなくなり、リードしている選手でもアドバンテージを計算してフライトすることが求められる。その駆け引きは、実際に大会を見てみると非常におもしろい。

また、アキュラシーは見ている一般の観客が楽しめる競技である。パラグライダーを知らない人でも競技を見た瞬間に、何を競っているのか、上手なフライトか失敗か、すぐにわかってもらえると思う。アキュラシー競技は、一般の観客に観戦してもらったり、体験会などを併催することによって、パラグライディングの認知度を上げるツールとしても期待ができるのではないかと思います。

そして、基本的にランディングする場所が平ら、もしくはゆるい斜面であれば、どんなエリアでも開催することができる。コンディションも、サーマルの有無に関わらず、フライトコンディションであれば成立するのは非常に魅力だ。実際にリーグが始まって以来約90%の確率で大会が成立し、日本選手権も過去4回ともすべて成立している。

15cmパッドを踏む方法

多くのフライヤーは自分は「ターゲットに向いてない」と思い込んでいる。でも確実にランディングエリアにはランディングしているはずだ。アキュラシーで真ん中を踏むために必要なことは、ランディングエリアに確実に降りることとなんら変わりはない。

アキュラシーは、簡単な法則を知ることによって飛躍的に成績が上がる競技だ。

大事なものは、コントロールを極めるよりも、パッドを踏むための法則を知ることである。通常の場合、ランディングに入るときは決まった高さがある。それは機体の滑空比を考慮して決定していると思うが、アキュラシーでもまったく同じ法則でパッドを踏むことができる。

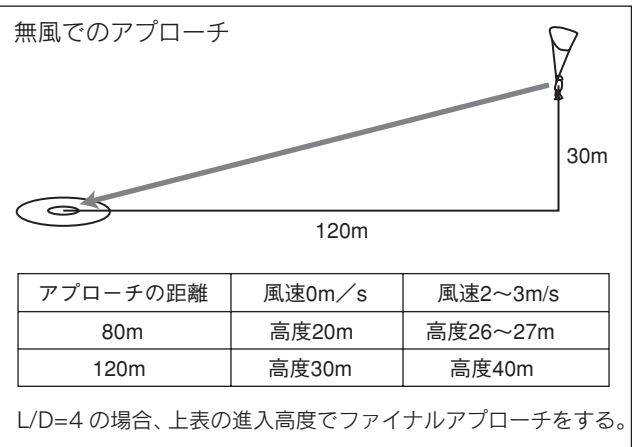
初級機クラスであればハーフブレードで $L/D=4$ を基本にしている（図参照）。無風の場合、120m離れた地点から高度30mでファイナルアプローチをする。向かい風 $2\sim3\text{ m/s}$ の場合は対地速度が約30%遅くなるので、進入する高度を約30%増した40mでファイナルアプローチをする。 $L/D=4$ はさらにショートさせることもできるし、オーバーさせることもできる。この法則によってパッドを踏む確率がぐんと上がる。

世界でも国内でも、上位選手のファイナルアプローチは約100m以上と、思ったよりも長い。直前での旋回はピッチやロールによって狙いにくくなるため、進入の高度が決まってさえいればあとは距離をあわせるだけなのだ。

競技レベル

アキュラシー競技は2006年にリーグ戦が始まり、日本ではまだ歴史の浅い

無風でのアプローチ



競技である。国際的には昨年クロアチアで行われた世界選手権が第5回ということで、10年以上の歴史がある。世界レベルで優勝するには、平均3cmくらいのスコアが必要となる。日本は国際大会の参加が少ないため、国別ランキング10位となっているが、今年7月にチェコで開催される世界選手権ではメダル争いができるような準備をしたい。

アキュラシーはまだ参加選手も多くはないので、日本代表が十分狙える種目だ。国内にも隠れた才能がまだまだいると思うし、年齢も性別もなく、誰でも上位を狙える競技だ。日本のアキュラシーがさらに盛り上がっていくように、皆さんのチャレンジをお待ちしております。



世界レベルに達するには平均3cmのスコアを。



日の丸を背負い世界を舞台にするのも夢ではない。

2011年CIVL総会から

国際航空連盟（FAI）の国際ハンググライディング・パラグライディング委員会（CIVL：フランス語で『自由飛行委員会』の略）の2011年総会が、スイスのローザンヌで開かれました。

日本を代表するデレグレート（委員）として、JHFが推薦した岡芳樹さんが日本航空協会より派遣され、総会前の小委員会と合わせて出席しました。以下は岡さんからの報告です。

日程：小委員会 2月24日・25日

総会 2月26日・27日

場所：スイス ローザンヌ

MSI (Maison du Sport International) およびHotel de Lac (小委員会)、Le Musee Plymptique (総会)

議決事項：

特に、関心が高く、重要と思われる事項を列記する（特に断らない限り、ハンググライディングとパラグライディング共通の事柄である）。

1. ワールドゲームズ参加

2013年7月25日～8月4日まで、コロンビアのカリ（ボゴダの南西約200km）で開催されるワールドゲームズ（オリンピック競技になっていないスポーツのオリンピック版）に、FAI

としてスカイダイビングのキャノピー・パイロティング、室内モデルプレーンとPG（パラグライディング）アキュラシーが参加することとなる。PGアキュラシー競技の参加選手数は36名。ウインチトーイングによるテイクオフ方法。

2. スポーティングライセンス

FAIスポーティングライセンスのデーターベース化は進んでいるが、2011年は移行期間として、紙ベースのライセンスも認める方向。

3. アクシデントレポート

カテゴリー1大会において起きた事故のレポートの提出をセーフティディレクターに義務付ける。集められたレポートをデーターベース化する（6月1日を目途に）。

4. カテ1大会使用ヘルメット

昨年から実施されている、カテゴリー1大会における使用ヘルメットがEN966規準の認証取得済みのものに限られている件に関し、ヘルメットに無線あるいはカメラマウント用の穴開け加工を施したものは認められない可能性が大。

5. スプログチェック

今年のHG（ハンググライディング）世界選手権（イタリア）でもスプログの設定検査を実施する。

6. XCオンラインコンテスト

CIVLの中で、WXC（ワールドクロスカントリー）オンラインコンテストを開催することとなった。これは、各国で独自に開催しているオンラインコンテストのデーター（igcファイル）をCIVLのサーバーへ送ることで行える。このデーターベースは、各バッジ（デルタゴールドとか、イーグルブロンズとか）要求基準を満たした場合に、その旨通知できるようなシステムになる。

7. HGカテ1参加資格

HGクラス1のカテゴリー1大会の参加資格として、現在の3分の2ルールを廃し、

- i) 大会開始から3年前までの間に、WPRSランキングにおいて20点以上を取ったことがある。
 - ii) 大会開始から3年前までの間に、30名を超える参加選手のFAI公認大会に1回以上参加したことがある。
- の2項目を満たすことに変更する。

8. 2013年HG世界選手権

2013年HG世界選手権は、オーストラリアのフォブスで1月1日～16日の日程（変更あり）で開催される。大会はエアロトーイングで行われる。大会に先立って、トーイングの訓練を実施する用意がある。トーイング技術が無ければ選手権に参加はできない。トーイング訓練には1日50A\$（約4,300円）かかる。

9. PG世界選手権使用機

- OCTWG（オープンクラス技術作業部会）の提言を承認する。これにより、7月スペインで開催されるPG世界選手権で使用されるグライダーに関して
- i) メーカーが必要な資料（衝撃荷重試験および静荷重試験、並びに使用されるライン素材・ラインプランなど）を5月6日までにCIVLに送付すること。
 - ii) 参加選手は、選手権で使用するグ



2009年HG世界選手権より。田中元氣選手、テイクオフ。

ライダーを所有していることの証明写真を6月5日までにCIVLに送付することとなった。

10. 新ヨーロッパ規準

OCTWGの作業をさらに1年更新し、新しいEN規準が出来るようにCENに働きかけてゆくこととする。

11. タスク途中の中止でも成立

PGのカテゴリー1大会では、これまで、誰もゴールしていない場合のレースタスクでは、危険な気象条件などでタスクを途中で中止した場合、タスクキャンセルとなっていたが、今後は、プログラムが算出したDQ（デイクオリティ）を70%に減らすことでタスクを成立とすることとなった。

12. ゴール者ゼロの場合

PGのカテゴリー1大会で、ゴール者がいなかったタスクでは、プログラムが算出したDQを80%に減らすこととする。

13. PGカテ1大会使用ハーネス

PGカテゴリー1大会において使用されるハーネスは、EN1651、LTF09あるいはLTF03の認証登録を取得していること。また、ハーネスには、LTF09あるいはLTF03の認証登録を取得しているプロテクションが装着されていること。

14. PGアキュラシー測定

PGアキュラシーのカテゴリー1大会で、測定フィールドの半径を5mとする。

15. PGアキュラシージャッジ

PGアキュラシーのカテゴリー1大会で、ジャッジングチームとして最低限必要なメンバーは、チーフジャッジ、イベントジャッジ、3名のターゲットジャッジとなった。

16. PG世界選手権参加費

今年スペインで開催されるPG世界選手権のエントリー費を、スペイン国の財政難の理由で当初の380€から478€に増額することが承認された。

17. 2013年PG世界選手権

2013年PG世界選手権は、ブルガリ



2010年、徳島県で開催した第2回PGアジア選手権より。

アのソポトで7月13日～26日の日程で開催される。

長：ロバート・アーツ（フィンランド）
PG小委員会委員長：クリス・バーン

18. 2013年PGアキュラシー世界選手権

2013年PGアキュラシー世界選手権は、ボスニア・ヘルツェゴビナのサラエボで8月18日～25日の日程で開催される。

19. PGアキュラシーアジア選手権

第1回PGアキュラシーアジア選手権は、台湾の宜蘭市で2012年5月30日～6月4日の日程で開催される。プレ大会は、2011年5月27日～29日に開催される。

20. HGディプロマ

今年度のHGディプロマは、イギリスが推挙したロッド・フラー氏（73歳）に贈ることとする。

21. 選挙

選挙の結果、下記役員が選ばれた。
CIVL委員長：ジョン・オールドリッジ（イギリス）

副委員長：イゴ・エルゼン（スロベニア）、クリス・バーンズ（イギリス）、アガスト・グドムンドソン（アイスランド）、スコット・トルケルセン（デンマーク）

事務局：ルイズ・ジョスリン（フランス）

財務：クース・ド・カイザー（オランダ）

安全小委員会委員長：カロリン・コチエチャ（ポーランド）

スポーティングコード小委員会委員



PG小委員会。



CIVL総会。

ズ（イギリス）

HG小委員会委員長：オイフィン・ド・エレフセン（ノルウェー）

PGアキュラシー小委員会委員長：ニキ・スペンス（イギリス）

アエロパティック小委員会委員長：デニス・ベイゲン（アメリカ）、イリス・ヴォイト（オーストリア）

レコード・パッジ小委員会委員長：スコット・トルケルセン（デンマーク）

21. 2012年総会開催場所

来年総会開催場所に、台湾から立候補が出され、投票の結果台湾に決定。

22. 2012年総会日程

来年総会開催日程は2月18・19日。

日本学生フライヤー連盟から 2010年度競技報告

日本学生フライヤー連盟理事長 三竹 諒

学生フライヤー連盟の三竹です。2010年度の学生連盟の競技について簡単に報告させていただきます。

競技シーズンのスタート

夏季の学生大会は、例年どおりハンググライディング（HG）とパラグライディング（PG）で別々に行いました。

HGは8月17日から19日までの3日間、茨城県足尾エリアでの「NASA Student Cup」がありました。また、学生PG大会は8月24日と25日の2日間で、新潟県尾神岳で行われる「尾神岳Student Cup」です。2大会の結果は次のとおりです。

□NASA Student Cup（HG）

[Expert class]

- 1位 小梶溪太選手
- 2位 財前直樹選手
- 3位 大森由総選手

[1 st. class]

- 1位 水野健太選手
- 2位 田盛公選手
- 3位 松田晃明選手

[2 nd. class]

- 1位 濱里庸平選手
- 2位 高本大輝選手
- 3位 岡田智之選手

□尾神岳Student Cup（PG）

[1 st. class]

- 1位 森俊法選手
- 2位 木綿諒典選手
- 3位 近洋平選手

[2 nd. class]

- 1位 荒井朋子選手
- 2位 津島香織選手
- 3位 徳増信之選手

[Open class]

- 1位 八島周平選手
- 2位 小野崎翔大選手
- 3位 滝沢花蓮選手

私自身はハングフライヤーなのでPG大会に参加していませんが、大会に行ったPG勢は、帰ってくるなり「何が楽しかった」「また来年行きたい」と口々に言っていました。大いに盛り上がった大会になったのは間違いないと思います。

また不運にも大学の用事と重なってしまったため、NASASの方も1日目しかいることができませんでした。大会は、残念ながら天候に恵まれず、1日のみの成立となってしまいました。

大規模な夏合宿

夏の間は大会だけでなく合宿が盛んに行われました。特に8月半ばの福井

県での「ジャム勝合宿」と、9月頭の鳥取県での「砂丘合宿」の二つは、全国規模で行う合宿で毎年参加者が多く、1年生も気軽に参加して楽しめる夏のメインイベントです。

私はNASASに出場できなかったのですが、池田山のHG大会に参加した足でそのまま砂丘合宿に合流しました。初めて行く砂丘と合宿、両方の規模の大きさと参加者の多さに驚かされっぱなしの1週間でした。特に砂丘は1年目のフライヤーがメインになる合宿だけあり、ただでさえ熱い砂丘が余計に熱く感じました（笑）。池田の大会で消耗した私には少しばかり酷でしたが…（熱中症というものを初めて感じました）。

1年生どうしの交流を図るために、秋に行っていた新人戦を砂丘合宿に統合したので、参加者も多かったのではないのでしょうか。私自身は初めて行った砂丘合宿なので比較のしようがありませんでしたが、前年度も行っていた後輩いわく『去年よりも多い』とのことでした。

新人も多く参加の中盤戦

夏の終わりと冬にかけての中盤戦がHGの西日本学生選手権とPGのパラフェスです。2010年度は、西日本学生選手権を和歌山県の龍門山で12月4日と5日の2日間、パラフェスは例年新人戦が行われていた山形県の十分一山で10月9日と10日の2日間行いました。結果は下記のとおりです。

□西日本学生選手権（HG）

[Expert class]

- 1位 馬場駿二選手
- 2位 松原直義選手
- 3位 太陽智仁選手

[1 st. class]

- 1位 松田祐樹選手
- 2位 保坂祥輝選手
- 3位 田中彬選手

[2 nd. class]

- 1位 安慶名千種選手
- 2位 千野慎也選手



暑い！暑い！学生フライヤーが集結した鳥取砂丘合宿。



西日本学生選手権より。

3位 森洋明選手

□パラフェス (PG)

[1st. class]

1位 木綿諒典選手

2位 森俊法選手

3位 坂本恵選手

3位 土田克茂選手

3位 近洋平選手

[2nd. class]

1位 浜口拓也選手

2位 津島香織選手

3位 杉崎花野美選手

[Open class]

1位 白石駿一選手

2位 小野崎翔大選手

3位 小山昂志選手

パラフェスも西日本学生選手権も、新人戦が砂丘合宿と統合したため、1年フライヤーのほとんどが初出場、初エリアでのフライトになったと思います。

西日本学生選手権はフライトは可能なものの両日ともに曇り空で、あまりよいコンディションとはいえない状況でした。パラフェスも1日目はフライトが可能でしたが、2日目は天候が悪化してしまいました。

学生の頂点を決定する学選

1年間を締めくくる大会が、HGとPGの学生選手権です。2010年度は、HGを山口県華山で2月26日～28日に、PGを茨城県足尾エリアで3月8日～10日に行いました。大会の様子と成績は以下のとおりです。

□2010年度ハンググライディング 学生選手権 in 華山

[Expert class]

不成立

[1st. class]

1位 二杉瑠香選手

2位 濱里亮平選手

3位 田中彬選手

[2nd. class]

1位 植原直人選手

2位 小林愛子選手

3位 宮崎匠選手

華山でのフライトは初めてだったので、強風や雨によって沢山飛べなかったのは本当に残念だが、大会の3日間に、他エリアの同期や地元の方と交流することができた。特に地元の方々からは連日カレーや猪鍋を振る舞っていただき、大変ありがたかった。結局競技は初日しか成立しなかったが、意義に過ごせたと思う。

私は1st.に出場した。初めての1st.出場ではあったが、少しでも上位に入るぞという気持ちで臨んだ。しかしながらまだまだ技量不足であることを感じた。

次回の学生大会は、夏のNASASだ。沢山飛んでもっと技量を上げて、上位を目指したい。報告：林貴裕

□2010年度パラグライディング学 生選手権 in 足尾

[1st. class]

1位 近洋平選手

2位 森俊法選手

3位 杉本和也選手

[2nd. class]

他者を思いやって動力飛行を

モーターパラグライダーは平地からも発進できることから人気を集めていますが、残念なことにJHF事務局にはモーターPGに関する多くのクレームが寄せられています。

国立公園で観光客の近くを飛び回ったうえ、管理者の注意を受け入れなかった。市街地を低空飛行した。高所作業中のタワークレーンに異常接近飛行し、工事を一時中断させた。野鳥観察のスポットで飛行、二度と野鳥が来なくなるかもしれない……等々。

地方自治体からも対策の相談が寄せられています。当事者は軽い気持ちで飛んでしまったのでしょうか。

1位 徳増信之選手

2位 藤田航輝選手

3位 津島香織選手

[Open class]

1位 安田瑛紀選手

2位 仙波望選手

3位 飛高早紀選手

今大会は、2日目に1st・2nd・OPENの全クラスが成立し、1日目、3日目は西風のためOPENのみの成立となった。

2日目は南西風の厳しい予報にもかかわらず、T.O.には午前中から南東風が吹いた。空中は春の荒れたコンディションとなったが、1stは11.8kmのタスクを全員がゴールし、1位の近選手は35分という速いタイムであった。2ndのデュレーション競技では、1位と2位のタイムの差が1分以内という接戦となった。また、OPENのターゲット競技では、3日間を通じて中心を踏む選手が多数出るなど、白熱した競争が各クラスで行われた。学生大会の年度最後の大会であったため、選手は楽しみながらも気合の入った面持ちであった。報告：土田克茂

以上、学生連盟競技の報告でした。私の理事長の任期は満了し、新しい役員たちが中心となって、2011年度も学生フライヤーの活動を盛り上げていきます。今後も学生連盟への応援、ご指導をよろしくお願いします。

ちで飛んでしまったのでしょうか。他者に迷惑をかけると気付かなかったのでしょうか。

この日本で動力付きも含めパラグライダーやハンググライダーが自由に飛べるのは、自主規制の下に皆さんがルールやマナーを守ってきたからです。社会が私たちの自主規制を尊重してくれるからです。

たった一人のフライヤーの行いが、かけがえのない自由飛行の環境を壊してしまうかもしれません。動力飛行を、そして無動力飛行を楽しむ皆さんも、まず他者を思いやり、安全な飛行を心掛けてください。

JHFからのお知らせ

■会費のコンビニ払い不可について お詫びとお願い

このたびシステムの不具合により、3月・4月フライヤー会員登録更新(12月末～2月18日にJHFから更新案内を送付した分)の皆様にお送りしたフライヤー会員登録払込取扱票の一部でバーコードエラーが発生し、コンビニエンスストアでのお振込ができないことがあります。ご迷惑をおかけして大変申し訳ございません。その場合は、ゆうちょ銀行にてお振込をお願いします。ご希望の方へは改めて払込取扱票をお送りしますので、お手数ですが、事務局までご連絡ください。

■事故報告のお願い

事故防止策の一環として、アクシデント、インシデント集の作成を予定しています。「重大事故ではないから」と報告されていない事故、インシデントの類がまだ多くあると思われます。

ハング・パラグライディングのより一層の安全性向上を目指し、できる限り多くの事故関連情報を皆様に提供できるよう、これらに関する報告もお寄せくださるようお願いいたします。

JHFウェブサイト「安全性委員会」の「事故報告」にある「事故を報告する」ボタンをクリックすると、事故報告フォームが表示され、比較的簡単な作業で各項目を記入できるようになっています。ご協力をお願いします。

■EN紹介DVD・日本語版作成

パラグライダーの安全規格「ENスタンダード」広報のため、エア・ターコイズ社が2009年に多国言語のDVDをヨーロッパで無償配布しました。日本でも講習会などで使用されていましたが、テレビ方式がPAL信号のため、このたびエア・ターコイズ社の承諾を得て、日本語字幕版をNTSC方式にしたものを用意しました。ご希望の方に無料でお送りしますので、事務局までお問合わせください。

■JHFステッカー販売中

JHFロゴにハンググライダーとパラグライダーをあしらったものと、ロゴのみの、2種類のステッカーを作りま

した(ボランティア堀江譲氏デザイン)。2種類1セットを製造原価とほぼ同じ送料込み500円でお送りします。

ご希望の方は、フライヤー会員No.／お名前／注文セット数／ご住所／連絡先電話番号／メールアドレスを、メール／FAX／郵便などでJHF事務局にご連絡ください。代金は、JHFの口座にお振込いただくか、50円または80円の郵便切手で金額分をお送りください。ご入金確認後発送します。



■住所変更届のお願い

JHF事務局からの登録更新案内やJHFレポートが「転居先不明」等で多数戻ってきます。住所を変更された方は、フライヤー会員No.／お名前／変更後のご住所／連絡先電話番号／メールアドレスを、メール／FAX／郵便などで事務局にご連絡くださいますようお願いいたします。

コンビニで更新手続きをされた場合は、払込票の控えは事務局に届きません。払込票で新住所をご連絡いただく場合は、ゆうちょ銀行にてお手続きください。

■会費を口座振替で

フライヤー会費は口座振替(自動振込)ができます。郵便局やコンビニに払い込みに行かずに済み、更新忘れによる無保険(第三者賠償責任)飛行も防げます。年会費5,000円が4,800円になり、振込手数料もかかりません。

登録更新案内に、口座振替案内と申込用紙を同封していますが、更新時期ではない方も予めお申込みいただけますので、お問合わせください。

■JHF備品の貸出

JHFでは下記備品の貸出をしています。ご希望の方は、JHFウェブサイト「フライヤーサポートデスク」→「各種登録申請貸出依頼」より各種貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力して、FAXかメールでお申

込みください。また、備品の返却にかかる送料はご負担をお願いします。

◇自動体外式除細動器(AED)

公認大会やイベント主催者に無料で貸出。申込条件：消防署や日本赤十字社等のAEDを使った救命法講習会を受講した方がいること。

◇ボロジメーター

キャノピー等のエア漏れ計測機。スクール・クラブ等が対象。貸出期間は2週間以内。貸出料5,000円。

◇スカイレジャー航空無線機

スカイスports専用の周波数で使う無線機(465.1875MHz)。JHF会員を対象に、大会やイベントでのご利用のため貸出。貸出料は1,000円／台。申込条件：ご利用者の中に「第三級陸上特殊無線技士」免許を持ちJHF無線従事者に登録している方がいること。

◇デジタル無線機

販売代理店のご厚意によりお借りすることができた5台を、JHF会員の皆様に無料貸出。

■ボランティア募集

JHFの助っ人になってくださる皆さんに「ボランティア登録」をお願いしています。JHF事務局での作業の場合は、交通費を往復2,000円までお支払いし、事務局以外の場合はその都度お知らせします。

JHFウェブサイトから登録用紙をダウンロードして必要事項を入力／記入し、事務局にメール／FAX／郵便などでお送りください。

■お申込み・お問合せはJHF事務局へ (社)日本ハング・パラグライディング連盟

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-39-42F
TEL.03-5961-1388 FAX.03-5961-1389
info@jhf.hangpara.or.jp
http://jhf.hangpara.or.jp/

JHFレポート 193号

発行日：2011年3月31日
発行：社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟 (JHF)
編集：JHF事務局
印刷：日本印刷株式会社